

Reitaku Overseas Development Association 麗澤海外開発協会 会報

平成19年
(2007年)
7月10日
第8号

第5巻 第1号
年4回発行

主な記事

巻頭 タイ・スタディツアー報告
報告 平成18年度事業報告
お知らせ ロゴマークの募集ほか
その他 寄付金等の報告

発行所：財団法人麗澤海外開発協会
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL.04-7173-3165 FAX.04-7173-8953
<http://www.reitaku.or.jp>
発行人・岩田啓成 / 編集人・横山守男

平成18年度 タイ・スタディツアー開催 国際協力を肌で感じた9日間

平成19年2月5日から13日までの9日間、第4回タイ・スタディツアーが行われ、麗澤大学でタイ語や国際協力論を担当する竹原茂教授(当協会理事)のもと、11名が参加しました。タイの文化を体験し、実際のボランティア現場を知ることによって国際協力への関心が高まった旅となりました。

当協会の支援先であるメーコック財団に4日間滞在し、財団の設立目的や活動内容のほか、興味深いエピソードや現在抱えている問題について話を聞くことができました。また、子供たちとの食事作りや遊びを通して、支援のあり方や、今も子供たちの身近にある麻薬問題を考えるきっかけともなりました。短い期間でしたが、プログラムの内容が濃く、子供たちのたくましさや日本との環境の違いを肌で感じる事ができたのではないのでしょうか。これらのふれあいを通して、知ることの大切さ、実践することの難しさも感じる事ができたツアーとなりました。



子供たちとの交流が何よりの思い出



メーコック財団で記念撮影



象に乗ってメーコック財団へ



タイ織物工場を見学

また会おうね 子供たち！

人とのふれあい、おいしいタイ料理、美しい民芸品や仏像など、タイ文化にとっても感動して帰ってきた参加者たち。そんな参加者からの感想を紹介します。

タイ・スタディツアーに参加して 麗澤大学外国語学部 柳澤 志歩

私は、2月5日から13日までのタイ・スタディツアーに参加しました。初の海外ということもあり、少々不安などもありましたが、この短い研修期間の間に様々なことを体験、経験し、現地でお世話になったガイドの方やドライバーの方々、ピパット家のみなさん、そしてメーコック財団の子供たちなど、本当にたくさんの人々と出会い、すばらしい日々を送ることが出来ました。きっと私にとってこれから先もずっと心に残る、忘れられないツアーになったと思います。

私は4月から麗澤大学に入学し、基礎ゼミの授業で国際協力や東南アジアの国々についての勉強をしてきました。それがこのスタディツアーに参加するきっかけとなったのですが、自分自身、今までボランティアや国際協力という活動に参加したこともほとんどなくて、ましてや日本以外の海外のことを詳しく知る機会もありませんでした。しかしスタディツアーに参加して、ボランティアというのはまず「知る」ということから始まるのだということを実感しました。この一週間の間にタイの伝統的な寺院や工場を見学したり、学校を訪れて校長先生からタイの教育現場が抱える様々な問題を聞けたりと、貴重な体験をすることが出来ました。そしておいしい料理もたくさん食べて、日本食とは違う食文化を体験できました。今までよりもタイへの理解が深まったと思うし、今の日本とのあまりにも違う厳しい生活状況にとっても考えさせられることが多かったような気がします。

メーコック財団で出会った子供たちは、親が麻薬を所持していて刑務所にいたり、親がいるけれど経済的な問題で一緒に暮らせなかったりと様々な問題を抱えています。家庭の事情でメーコック財団に来たばかりの子供たちの当初は、栄養を十分に取れてなくて痩せていて、箸を使った食事も出来なかった子供もいたそうです。しかし、メーコック財団の子供たちは、そんなことも感じさ



子供たちの明るさに救われました

せないほど素直で人なつっこくて、とても笑顔がかわいらしい子供たちばかりでした。メーコック財団の子供たちとふれあい、家族と一緒に暮らせなくても、自分の身の回りのことは出来る限り自分自身でやり、子供たちが力を合わせて生活している立派な姿を見て感動したのと、家族と一緒に暮らせるということは本当に幸せで大切なのだということを感じました。日本の子供たちのなかで、毎日朝早くに起きて、朝食の準備をして掃除・洗濯をして、学校に通って一生懸命勉強に励んでいる子がいるでしょうか。

タイの山岳地帯の小学校では、少数民族の子供たちが多く通っています。家から学校が遠いため、2時間以上歩いて登校する子供や、幼稚園や小学校から寮に入り生活する子供、貧困のため政府からの支援に頼るしかない子供もたくさんいます。政府からの支援も十分とはいき切れず、子供たちの学校での環境はまだまだ良いとはいき切れないのが現実でした。同じアジアに住んでいる私たちに、勉強したくても満足に学校へも通えない子供たち、勉強する環境が整っているにも関わらず勉強しない子供たち、というような差があるというのはとても憤りを感じます。だからこそ実際に現地へ行って子供たちの生の姿を見て、この子供たちに私が何か出来ることがあるのなら支援していきたいと強く思うようになりました。

楽しかっただけで終わらせるのではなく、このツアーは私が今後どう生きていくかのヒントになったと思うので、感じ取り学んだことを活かし、これからも自分に何が出来るとかということを追いかけていきたいと思っています。

タイ・スタディツアーに参加して 京都女子大学家政学部 地主 芳恵

「ピーヨシエ」

「ピー」はタイ語でお姉さんの意味です。メーコック財団の子供たちがこう言って寄ってきてくれると、私はとても嬉しく幸せな気持ちになりました。子供たちの笑顔と優しさにたくさんの元気をもらいました。ずっとこの笑顔でいてほしい、夢を持ってがんばってほしい、そう願わずにはいられませんでした。

このツアーに参加して、国際協力ではまず「知る」ということから始めなくてはならないということを知りました。バンコクの空港に降り立ったとき、チェンマイの町を車で走ったとき、本当に他の国からの支援を必要としている国に来たのだろうかと思うほど、華やかでにぎわっていました。日本で想像していた風景とはまるで違っていました。少数民族の村では、都会のように便利ではありませんが、自然と共生し、人と人が助け合って暮らす人間味のあるすてきな生活だなという印象を受けました。そこに住む人々の表情は笑顔に溢れていて生き生きとしていました。しかし、貧しく子供に教育を受けさせることができない家庭が多くあるといます。子供をメーコック財団に預けているという家族にもお会いすることもありました。メーコック財団には親がいなかったり、親が麻薬によって刑務所に入っているという子供もいます。タイでは麻薬の問題が深刻です。あんな無邪気な子供たちの近くにあの恐ろしい麻薬があるのかと思うと胸が締め付けられる思いがしました。子供たちが麻薬の恐怖から逃れるためにも、都会で騙されないためにも、教育がとても重要だということを知りました。そして充実した教育活動には、国際的な援助が不可欠であるということがわかってきました。見てわかること、現地の人や先生のお話を聞いて初めてわかることがあって、いろんな角度からその問題をとらえる目が必要だということを知りました。

タイに初めて行って見て、日本人は他のアジアの国についてあまりにも知らなすぎると感じさせられました。ツアーの中でたくさんのタイ料理を食べ、タイの民芸品を見、タイ式マッサージも経験させてもらいました。アジアにはこんなにも素晴らしい文化や伝統があったのかと感動しました。「アジア文化より西洋文化」という風潮の日本で暮らしてきて、アジアについてあまり綺麗な印



日本のお参りの仕方との違いにワクワク

象を持っていなかった私は、それが偏見だったと思い知らされました。日本人は、こんなにも素晴らしい文化を知らないなんてもったいないと思いました。帰ったら友達に教えてあげたい！ そう思ってたくさん写真を撮って帰ってきました。

日本に帰ってきて地下鉄に乗ったときのことです。お母さんの膝の上で甘える一人の子供を見かけました。そのとき、ふとメーコック財団の子供たちを思い出しました。元気で明るく見えた子供たちだったけれど、やっぱり両親と離れての生活は寂しいことやつらいことなど、私たちが計り知れない思いがあるのだろうと考えてしまいました。私が今、家族と共に生活できること、やりたいことを勉強させてもらっていることを、改めて当たり前と感じてはいけななと思いました。またメーコック財団でがんばる子供たちのことを絶対に忘れないでいようと思いました。

私はこのツアーでは貧困やそれによる悲しみを感じる人が多いのかなと思っていました。しかしツアーを終えて心に残っているのは、タイの文化に対する感動や子供たちの優しさ、子供たちを支援しているスタッフや先生方の一生懸命さでした。そのエネルギーに励まされてばかりでした。私も何事にもチャレンジしてもっと広くいろんな知識を増やしたい！ そんな前向きな気持ちになりました。

今回、観光ツアーではなかなか見学できないところに行くことができ、現地の人々の生活や抱える問題を生で聞くことができました。これは竹原先生をはじめ、ガイドのクンさん、渡辺さん、ピパット家のみなさん、ドライバーのレクさん、ヒンさん、麗澤海外開発協会のみなさん、本当に多くの方々の協力の上でできたことだと、感謝の気持ちでいっぱいです。このツアーで感じたこと、またこのツアーで出会った仲間とのつながりを大切にしていきたいです。そして国際協力について、これからじっくり勉強を深めていきたいと思っています。ありがとうございました。

平成18年度事業報告

1. 技術者の派遣と支援事業への助成

<ネパール>

(1) ネパール王国において東洋療法(鍼灸・指圧)による住民の健康回復に寄与するために、日本人専門家を派遣して治療技術者の育成を行い、また、治療に使用する「もぐさ」の製造技術者を育成し自立支援を実施した。

<タイ>

- (1) タイ北部チェンライ県で、生活が困窮している少数民族の児童に対して生活・教育支援施設の運営事業を実施している、メーコック財団に対して支援と助成を行った。
- (2) チェンライ・ラチャパット大学日本語学科講師(～平成18年9月)の渡辺朋子(麗澤大学卒、現麗澤海外開発協会職員、廣池学園嘱託職員)を定期的(毎月1回)にメーコック財団へ派遣して活動の支援を行った(～平成18年10月)。

2. 海外研修旅行の実施およびサポート、海外視察

(1) タイで活動する支援団体の状況を視察し、ボランティア研修を通して、現地の現状および海外NGO活動についての理解を深めるために、スタディツアーを実施した。

日程 平成19年2月5日(月)～2月13日(火)(9日間)

(2) 麗澤高等学校のタイ・スタディツアーに職員を派遣し、運営サポートを行った。

日程 平成18年12月20日(水)～12月28日(木)(9日間)

(3) メーコック財団における茶の生産計画への指導を検討するため、現地調査を行った。

日程 平成18年9月5日(火)～9月6日(水)(2日間)

(4) ラオス国内における学校建設支援の検討のため、現地調査を行った。

日程 平成18年9月28日(木)～10月2日(月)(5日間)



「伝統の日」では多くの方にお越しいただきました

3. 広報活動

- (1) ニュースレター第6号(7月)、第7号(3月)を発行した。
- (2) インターネット・ホームページを改定した。

4. 賛助会員募集

賛助会員、寄付金、竹原基金の募集を行った。

- ① 賛助会員(法人) 13社 (個人) 123件
- ② 寄付金 76件 ③ 竹原基金 106件

5. 概説・原典研究講座での選択コース開設

モラロジー研究所の概説・原典研究講座の選択コースにおいて、「国際救援活動」のコースを開設し、麗澤海外開発協会とMIRCが交互に講義を行った。



「生涯学習フェスタ」では棒灸の実演を行いました

6. 講演会等の開催

- (1) MIRC主催のミニ講演会において、麗澤海外開発協会のタイ・スタディツアーの報告を行った。
- (2) 前年度の第1回に引き続き、麗澤大学の学生との関係強化および国際支援活動に関する情報交換を目的とした、大学生との懇談会を行った。

7. 出展活動

写真展示やタイやネパールの民芸品などのグッズ販売、会員募集案内などを行った。

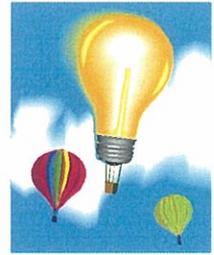
- (1) 「伝統の日」(平成18年6月3日～4日)
- (2) モラロジー研究所主催「生涯学習フェスタ2006」(平成18年10月1日)

平成18年度収支決算書

(単位 円)

収入の部		支出の部	
基本財産利息収入	111,285	会議費	494,270
賛助会費収入	2,070,000	旅費交通費	9,540
寄付金収入	983,999	通信費	95,210
竹原基金収入	1,059,844	消耗品費	44,634
受取利息収入	1,115,451	印刷費	127,260
当期収入合計	5,340,579	交際接待費	70,500
前期繰越収支差額	13,418,843	雑費	140,839
収入合計	18,759,422	海外旅費	2,281,061
		図書資料費	24,225
		助成費	500,000
		別途積立金支出	13,000,000
		当期支出合計	16,787,539
		次期繰越収支差額	1,971,883
		支出合計	18,759,422

麗澤海外開発協会 ロゴマーク大募集！！



国際協力活動を推進する(財)麗澤海外開発協会では、より広く身近に協会の活動を知っていただくために『ロゴマーク』を募集しております。

下記の募集要項をご覧ください、お気軽にお申し込みください。皆様からの素晴らしい作品のご応募をお待ちしております。

なお、最優秀作品には、賞品をご用意しておりますので、奮ってご応募ください！

☆ロゴマーク募集要項☆

1. テーマ	財団法人麗澤海外開発協会（英語表記：Reitaku Overseas Development Association、略称：RODA）の設立主旨である、「発展途上国において文化・経済の発展に協力するため、人材の育成と技術指導を行い、もって世界の平和、人類の安心と幸福に寄与すること」を踏まえたうえで、この協会へのあなたのイメージを表現してください。体裁等の制限はありません。
2. 応募資格	テーマにそったものであれば、どなたでもご応募できます。
3. 募集期間	平成19年7月1日（日）～10月31日（水）
4. 応募の仕方	用紙はハガキサイズからA4サイズまで、どの種類でも結構です。以下のいずれかの方法でお送りください。（メールの場合はWordファイルなどをご使用ください） (1) メール (2) 郵便送付 (3) 当協会に直接提出
5. 審査及び発表	当協会内で審査をし、平成19年度中に発表いたします。
6. 賞	最優秀賞：1点 商品券（3万円分）を贈呈いたします。
7. その他	・採用されたロゴは、会報誌などの当協会の印刷物・ホームページなどに使用いたします。 ・採用作品の著作権は当協会のもものとします。また、応募作品は返却いたしませんので、ご了承ください。
8. 応募 ・問合せ先	〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1（麗澤大学1号棟2F総務課内） (財)麗澤海外開発協会 事務局（岡戸） TEL：04-7173-3165 FAX：04-7173-8953 E-Mail：emiokado@ga.reitaku-u.ac.jp

活動
紹介一つ一つ手作りの作務衣をタイから日本へ
アクセス21

今年、麗澤大学を卒業した青木郁予さん。現在、エイズ感染者の多いタイ北部で職業訓練の一環として作務衣(さむえ)を作り、日本で販売する「アクセス21」の活動に参加しています。

私は、2007年3月に麗澤大学を卒業後、現在は長野県松本市浅間温泉にある神宮寺に事務所を置く、特定非営利活動法人アクセス21(以下、アクセス21)の日本側スタッフとして働いています。アクセス21はタイのHIV/エイズの問題にアクセスし、特に感染者の多い北部タイで現地の人々と活動をしています。具体的には、HIV感染女性とその地域の女性たちのコミュニティーで製作した作務衣を日本で販売するという協働プロジェクト(フェアトレード)をしています。この作務衣は、綿花から綿を摘み、手撚りで糸にし、それを草木染め(藍染・黒檀染)し、更にその手織りした生地を女性たちの手によって一つ一つ縫製していくので、肌触り・着心地がよいというメリットと同時に、地域の伝統技術保存への協力にもなっています。

大学3年生から竹原ゼミ、サークル・プアンに所属するようになった私は、竹原先生をはじめ活動を共にする仲間から、経験を通しての学習の大切さを実感し、また様々な人との輪が広がるチャンスを得ました。その中に、現在のアクセス21の専従スタッフである麗澤大学卒業生でプアンOGの齊藤京子さん、師田慈子さんと出会い、アクセス21と出会いました。HIVという深刻な問題と向き合いながら、フェアトレードという手段で国際協力に取り組み、また天然素材にこだわった作務衣の製作を通して人と自然にやさしいものづくりに尽力し、それが彼女



たちの伝統技術保存の協力にもなっている、この多角的な活動への驚きと、この団体と関わることでの可能性を感じました。実際に働くようになって、様々な人との出会いがありました。国際協力に興味がある人、国内で社会的弱者のために活動する人、環境と人間の健康、自然と人とのよりよい共生について考えた衣食住を目指す人、染物や織物という観点から芸術面で作務衣を愛用する人、そして自分にも未知であったエイズという病気と闘う人やその人を取り囲む人。いろいろな角度から、このアクセス21の作務衣や協働プロジェクトに共感または感銘し、歩み寄ってつながっている人との関わりは、励みとなり刺激でもあり、そしてなにより貴重な学びです。

報告の最後になります
が、2006年より、麗澤海外開発協会のご厚意で「伝統の日」に出展の場を設け、多くの方々に私どもの活動についてご理解とご関心をいただきましたこと、心から感謝しています。今後ともよろしくお願いいたします。

(青木 郁予)

お父さんにプレゼントした作務衣。とても喜んでくれました



すべて手作業で行っているので長年ご愛用いただけます

【お問い合わせ】

アクセス21 (Access21)

〒390-0303

長野県松本市浅間温泉3-21-1 神宮寺内

TEL 0263-46-0715

HP <http://www.access21.org>

平成19年「伝統の日」に出展しました

今年6月、千葉県柏市と岐阜県瑞浪市において(財)モラロジー研究所および(学)廣池学園主催の「伝統の日」が開催され、麗澤海外開発協会では、活動紹介展示とタイおよびネパールの民芸品販売を行いました。一つ一つ手作りの民芸品はどれも好評で、多くの方にご購入いただきました。その売り上げの一部は現地での活動に還元しています。

また、来年度に統合することが決まったMIRC募金にもご協力いただきまして、まことにありがとうございました。募金は235,121円となりました。この募金はラオスの小学校建設に使わせていただきます。

今年はさらに、柏市の同会場で行われる生涯学習フェスタ(9月30日)とモラロジー女性クラブ全国大会(10月14日)にも出展する予定です。皆様のお越しを心よりお待ちしております。



たくさんのご支援、ありがとうございます

(平成19年2月から平成19年5月末日)

会費

山口明、高野橋孝治、内田誠一郎、山崎純雄、戸田正宏、井上源一、井上源次、原田忠、廣池英行、上村卓三、中村修一、武藤孝義、齋藤芳男、藤村陽子、富山修、長谷篤治、星野恵昭、俣野幸昭、宮脇常夫、大村金三、渡辺康博、森下健、新井秀啓、松川邦和、岸本收、和田悦治、宮本晴夫、西村マサノ、宮本勝子、太田徳昭、石渡英雄、小松務、前田三作、平川恵一、大山寿々枝、高松宇佐雄、藤森忠雄、山本浩、福澤清治、望月省二、杉浦廣道、小山松男、橋本半兵衛、中川千恵子、石川欽一、東海林新彦、高松洸、長谷和治、嶋田順子、小嶋義佑、伊東俊太郎、岩田啓成、大橋政夫、柴田英輔、山口マーク、稲川照男、田島正幸、大垣モラロジー事務所(古川定邑)、徳山モラロジー事務所(原田忠)、海部津島モラロジー事務所(浜島千恵子)、株式会社ピアかざりや(新井秀啓)、合資会社川貞商店(古川定邑)、株式会社ダイキョープラザ(杉一郎)、株式会社スーパーバリュー九州本部(杉一郎)、株式会社小松製菓(小松務)

一般寄付金

横溝久子、阿部邦夫、三浦俊夫、原田忠、山田荘一、地主将人、大山圭子、長谷篤治、宮脇常夫、森下健、和田悦治、木野千代子、杉浦廣道、東海林新彦、高松洸、長谷和治、大橋政夫、柴田英輔、田島正幸、高橋孝次、南戎子野町内会ほほえみ、守口門真モラロジー事務所(藤原照雄)、株式会社インシダ(石田隆一)、東京北モラロジー事務所レインボー会、株式会社アイディ(伊藤一郎)

竹原基金

ウイクラマ外文字、横溝久子、山口明、原田忠、廣池英行、大山圭子、鋤柄勘治、長谷篤治、田中駿平、松井さだ子、宮脇常夫、岸本收、西村マサノ、宮本勝子、石渡英雄、内野俊策、前田三作、平川恵一、井上千多枝、高松宇佐雄、山本浩、杉浦廣道、東海林新彦、加藤栄一郎、長谷和治、飯島孝夫、小嶋義佑、三保博子、大橋政夫、柴田英輔、望月雄二、田島正幸、特定非営利活動法人スリーピースの会(橋本佳子)、南戎子野町内会ほほえみ、高知県モラロジー協議会(中平明)、東京北モラロジー事務所レインボー会

(敬称略)

麗澤海外開発協会と MIRCが統合します

— 平成20年4月から新しい(財)麗澤海外開発協会に —

財団法人麗澤海外開発協会とMIRC(モラロジー国際救援運動推進委員会)は、これまでにそれぞれ特長を生かした活動を行ってきましたが、平成20年4月をもって両団体は統合し、MIRCの事業は財団法人麗澤海外開発協会が引き継ぐこととなりました。

今後とも皆様の変わらぬご理解とご協力をお願い申し上げます。

統合後の事業展開

- ★ ネパールにおける医療支援活動
- ★ タイにおける教育支援活動
- ★ ラオスにおける学校再建・図書館建設
- ★ カンボジアにおける学校建設

現地を視察する
スタディツアーも充実!
(MIRCカンボジア・スタディツアーの様子)



タイ・スタディツアー参加者募集!

現地の人々との交流や体験を通して、ボランティアや国際交流への視野を広げ、自らの新しい可能性を発見してみませんか。



- 【日程案】 平成20年2月11日(月)～19日(火) 9日間
- 【参加費】 170,000円
- 【応募資格】 年齢18歳以上(20歳未満の方は保護者の承諾書が必要)
健康状態が良好な方/当会の活動に関心のある方
- 【募集定員】 13名(定員になり次第締切ります)
- 【必要となるもの】 パスポート(有効期限6ヶ月以上のもの)
- 【締切り】 平成19年11月30日(金)
- 【お問い合わせ】 (財)麗澤海外開発協会 事務局(岡戸)
〒277-0065 千葉県柏市光ヶ丘2-1-1
TEL: 04-7173-3165 FAX: 04-7173-8953